

化 学

助 教 授 広 上 俊 一
教 務 職 員 角 田 広 子

◆ 研究概要

広上俊一, 角田広子: 4-ピリミジノン誘導体の光化学反応: デュワーピリミジノン誘導体の求核試薬との反応: 光化学に生成したデュワーピリミジノン誘導体のX線結晶解析による分子構造の決定: デュワーピリミジノン誘導体の電子状態の計算.

◆ 原 著

- 1) Kakuda H., Takahashi Y., and Hirokami S.: (E) - and (Z) - Enamine Dewar Pyrimidinones. Acta Cryst. Sect. C51: 2647-2650, 1995.

◆ 学会報告

- 1) 広上俊一・村尾明広・角田広子: 光化学反応中間体であるイミンデュワーピリミジノンの構造と反応性, 日本化学会第69春季年会, 1995, 3, 京都.
- 2) 角田広子, 高橋由紀子, 広上俊一: エナミン型 Dewar 4-Pyrimidinone の構造解析, 日本薬学会第115年会, 1995, 3, 仙台.
- 3) 桐原正之, 横山 敏, 西尾 隆, 角田広子, 百瀬雄章: 超原子価ヨウ素化合物によるシクロプロパノール環開裂反応の開発とその応用. 第21回反応と合成の進歩シンポジウム, 1995, 11, 京都.

薬 学 部 生 物 学

教 授 菅 野 延 彦
教 務 職 員 日 比 野 康 英

◆ 原 著

- 1) Hibino, Y., Fujii, K., Tsukada, S. and Sugano, N.: Binding affinities of highly repetitive DNA components for a nuclear scaffold protein from rat-ascites hepatoma cells. Cancer Lett., 88: 49-55, 1995.
- 2) Hibino Y., Kusashio, E. and Sugano, N.: Cisplatin-modified DNA-binding proteins in a nuclear extract of rat-liver cells. Biochem. Mol. Biol. Int., 36: 617-625, 1995.

◆ 学会報告

- 1) 日比野康英, 藤井謙一, 菅野延彦: 細胞核 scaffold蛋白質のリン酸化とDNA結合能について. 第13回日本生化学会北陸支部例会, 1995, 5, 富山.
- 2) 鏑木淳平, 小池淳平, 日比野康英, 菅野延彦: 植物性多糖蛋白質画分(LAP1)によるマウス脾細胞からのサイトカインと細胞傷害性因子の産生誘導. 日本薬学会北陸支部第92回例会, 1995, 6, 金沢.
- 3) 日比野康英, 草塩英治, 神内伸也, 菅野延彦: シスプラチン損傷DNA認識蛋白質の精製とその諸性質. 第68回日本生化学会大会, 1995, 9, 仙台.
- 4) 日比野康英, 藤井謙一, 菅野延彦: 細胞核 scaffold蛋白質のリン酸化とDNA結合能について. 第68回日本生化学会大会, 1995, 9, 仙台.
- 5) 小池淳平, 鏑木淳平, 日比野康英, 大橋康宏, 菅野延彦: 椎茸菌糸体培養基由来の多糖蛋白質画分(LAP1)によるマウス脾細胞からのサイトカイン・細胞傷害性因子の産生誘導. 第54回日本癌学会総会, 1995, 10, 京都.
- 6) 日比野康英, 草塩英治, 菅野延彦: シスプラチンによるラット肝由来培養細胞のDNA修復亢進作用. 第54回日本癌学会総会, 1995, 10, 京都.
- 7) 小前憲久, 成田和久, 日比野康英, 菅野延彦: 薬剤で誘発される小核に関する形態学的, 分子生物学的検討. 日本薬学会北陸支部第93回例会, 1995, 12, 金沢.

◆ その他

日比野康英: 細胞内DNA修復活性測定法の確立. 富山県バイオ産業振興協会主催研究者交流会, 1995, 9, 富山.

英 語

教 授 藤 本 正 文
助 教 授 浜 西 和 子
助 教 授 松 倉 茂
外国人教師 ジリアン・S・ケイ

◆ 研究概要

- (藤本) 米文学, 批評理論
(浜西) 英米文学, 仏文学
(松倉) 意味論 (語用論を含む)
(ケイ) Loanwords, Foreign Teachers in

Japanese National Universities, English Language Teaching Methodology.

◆ 著 書

- 1) 藤本正文訳：「技術——クリティカル セオリー」(叢書ユニベルシタス 488) Feenberg A. 著, 法政大学出版局, 東京, 1995.
- 2) Kay, G., (ed): University English Teaching, Japan Association of Language Teachers, 1995.

◆ 原 著

- 1) 藤本正文：＜推理小説＞考——バルト, ヤコブソンの流儀で. アメリカ文学評論 15: 62-70, 英文梗概 (43)-(44), 1995.
- 2) Kay, G.: English Loanwords in Japanese, World Englishes, pp 67-76, Blackwell Publishers, 1995.
- 3) Kay, G.: Gaikokujin Kyoshi at National Universities: A Discussion of Academic Apartheid. ON CUE Vol 3 No 1, pp. 37-38, 1995.
- 4) Kay, G.: Status of Gaikokujin Kyoshi at National Universities. The Language Teacher, Vol 19 No 10, pp. 41-43, 1995.
- 5) Kay, G.: English Language Entrance Examinations at Japanese Universities, in University English Teaching. Japan Association of Language Teachers, 1995.
- 6) 2) Kay, G. (ed.), Age/Race Discrimination at Japanese Universities. ON CUE, 39-42, 1995.

◆ 学会報告

- 1) Kay, G., Processes of Nativization of English Words Borrowed into Japanese. International Association for World Englishes Second International Conference on World Englishes, Nagoya, 1995.

◆ その他

- 1) Kay, G., Cambridge International Dictionary of English, Language Research Consultant. Cambridge University Press, 1995.

独

語

講 師 名 執 基 樹

◆ 研究概要

文学システムの経験的調査(札幌の作家を対象にした文化活動の社会的構造の分析)

◆ 学会報告

- 1) 名執基樹：文学システムにおけるメカニズムとしての作家, 日本独文学会秋季研究発表会, 1995, 9, 21, 札幌.
- 2) 名執基樹：P. ブルデューの文学論と経験的文学研究, 日本独文学会北陸支部研究発表会, 1995, 11, 4, 金沢.

保 健 体 育

助 教 授 小 野 寺 孝 一

◆ 学会報告

- 1) 蔵堀小百合, 加藤則子, 三辺忠夫, 村井貞子, 中瀬真一, 吉崎亨, 小野寺孝一：高血糖, 高脂血症者の追跡調査結果について, 第17回日本健康増進学会, 1995, 11, 奈良.

◆ その他

- 1) 小野寺孝一：Bioelectrical Impedance法とその問題点, Body Composition解析研究会発表論文集, 6, Nov. 1994.

日 本 語 ・ 日 本 事 情

助 教 授 大 星 光 史

◆ 研究概要

日本文芸・詩歌関係及び日本文学と老荘神仙思想

◆ 著 書

- 1) 大星光史：「良寛」世界思想社, 京都, 1995.
- 2) 大星光史：「尾崎放哉」, 世界思想社, 京都, 1995.

◆ 原 著

- 1) 大星光史：私の老荘思想, 「風知草」, 1995.
- 2) 歌碑に生きる會津八一, 「短歌現代」11月号, 1995.